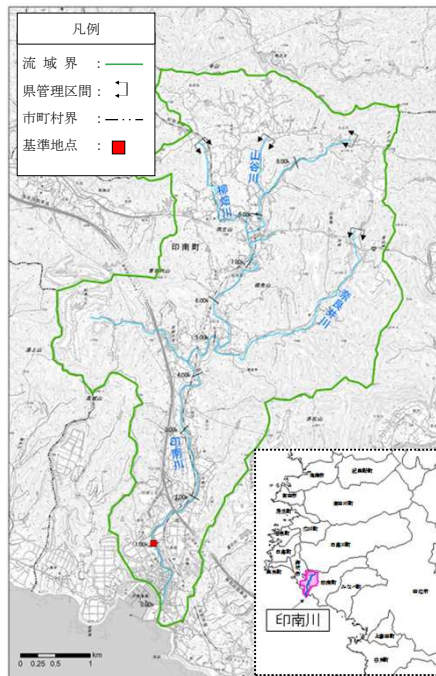


- 印南町を流れる印南川の流域では、過去から深刻な浸水被害が発生
- 気候変動の影響により水災害が激甚化・頻発化しており、「流域治水」の取組を推進

流域

- ・流域面積：約20km²
- ・幹川流路延長：約11km



印南川水系図



印南川基準地点(1.0k)付近

気候

- ・南海気候区に属し、年平均気温は約16°C
- ・年平均降水量は約2,110 mm (印南)であり、日本の平均(約1,700 mm)を上回る



年降水量の分布図

流域治水

- ・流域全体で、あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の取組を推進
- ・この取組を具体的に実践するため、「流域治水プロジェクト」を早期に策定し、策定後は関係者によりフォローアップを行う



「流域治水」の施策イメージ

過去の浸水被害

- ・過去から深刻な被害が発生しており、昭和35年～平成12年まで治水事業が進められた
- ・平成18年9月豪雨や平成23年9月台風12号等、近年も深刻な浸水被害が発生

【主要な浸水被害】

発生年月	災害種別	床上(戸)	床下(戸)
昭和37年 7月2日	豪雨	222	219
昭和47年 6月6日～7月23日	台風	0	4
昭和50年 8月5日～8月25日	豪雨	1	0
昭和63年 9月22日～9月29日	豪雨	1	6
平成3年 11月27日～11月28日	豪雨	2	1
平成18年 9月3日～9月8日	豪雨	2	31
平成22年 10月8日～10月10日	豪雨	1	1
平成23年 8月30日～9月7日	台風	0	23



昭和37年 印南小学校付近



平成18年 八幡橋(0.7k付近)



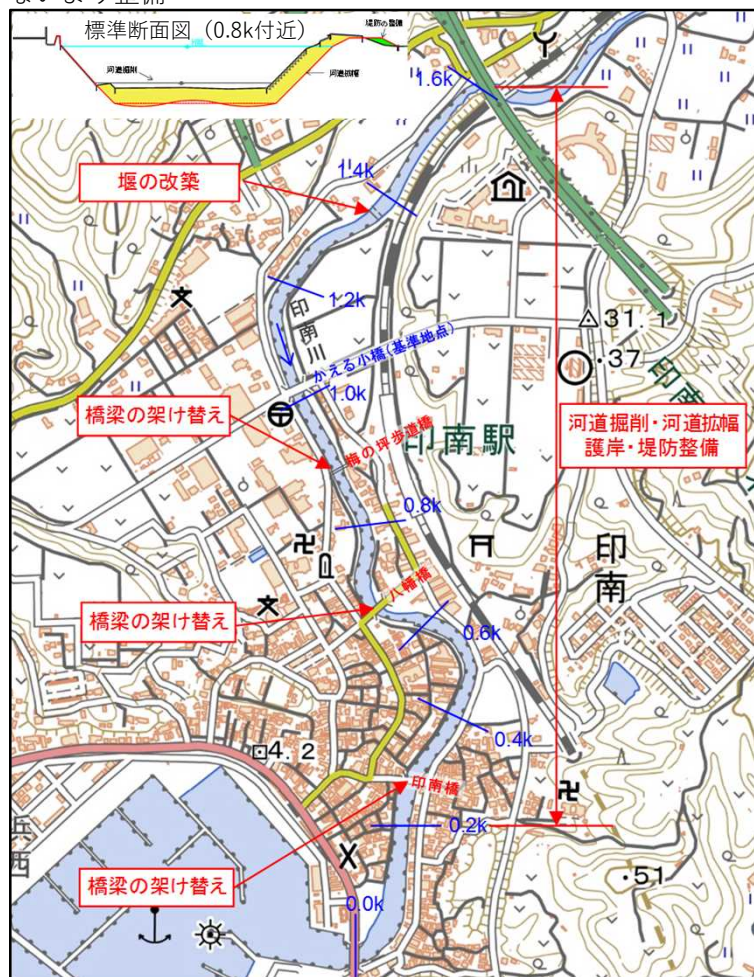
治水事業の沿革

- 必要な河川の断面を確保するため、河道掘削や堤防整備等を実施
- 流域の生態系の保全や地域文化の継承にも留意し、整備と維持管理を実施

河川の整備

【ハード対策】

- ・計画対象期間：概ね 20 年間
- ・年超過確率1/30規模に気候変動の影響を考慮した流量340m³/s (基準地点：かえる小橋) に対して、家屋浸水被害が生じることのないよう整備



【ソフト対策】

- ・河川情報の収集・発信において、デジタルトランスフォーメーション (DX) を推進する
- ・洪水ハザードマップの作成や水防体制の維持・強化を支援する
- ・関係機関や地域住民と連携し、洪水時の避難警戒体制の充実を図る



洪水浸水想定区域図

生態系の保全

- ・動植物の生息・生育・繁殖環境が維持されるよう、河川環境に関する調査に基づき、上流から下流、それぞれの特性を踏まえた環境の保全に努める

【確認されている重要種の例】

- 魚 類：ニホンウナギ(EN)、ミナミメダカ(VU, VU)
- 底生動物：ヒロクチカノコガイ(NT)、フネアマガイ(VU)
- 鳥 類：ハチクマ(NT, NT)、コシアカツバメ(NT)
- 植 物：キシウナキリスゲ (VU, NT)、アコウ (NT)
- (下線なし：環境省レッドリスト2020、下線：和歌山県レッドリスト2022)



ミナミメダカ



キシウナキリスゲ

河川の利用

- ・河川水は主に農業用水として利用されており、関係機関と連携し、効率的な水利用を促進する
- ・河口付近の川渡り等に代表される歴史や文化等を保全・継承する



川渡り (秋祭り)

河川の維持管理

- ・河床の変動状況や樹木の繁茂状況を継続的に把握し、流水の障害となる堆積土砂や樹木の除去を行うなど、流下能力の維持に努める